

わたしたちにできる! 今日から始めるSDGs

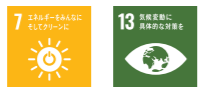
持続可能な開発目標(SDGs)は、世界を変えるための重要で壮大な目標です。
でも、わたしたちが日々の生活に取り入れられる簡単な行動がいくつもあります。
あなたにもできることを探してみましょう。

ソファに寝たままでもできること / 電気機器の電源を切ろう

電気機器は電源タップにまとめて差し込み、使っていないときはスイッチをオフにして節電しよう。



関連する主なゴール



地域でできること / マイバッグなどを持参しよう

買い物をするときは、プラスチック袋を断って、マイバッグを持ち歩こう。



関連する主なゴール



家でできること / 紙・プラスチック・ガラス・アルミを分別しよう

分別し、リサイクルすることで、ごみの量が減り、資源の循環利用につながるよ。



関連する主なゴール



職場でできること / 若者の相談相手になろう

経験を分かち合うことは、誰かの未来を照らす力強いサポートになるよ。



関連する主なゴール



参考: 国連広報センター

栃木県におけるSDGsの推進について

<https://www.pref.tochigi.lg.jp/a01/tochigi-sdgs.html>



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

とちぎ
×
SDGs

未来のためにできること

SDGsとは

SDGs(エスディーゼーズ)とは、
「Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)」の略称で、
2015年に国連が定めた国際的な目標です。
2030年までの長期的な開発の指針として、17のゴールが定められています。



SDGsの17のゴール

- | | |
|---|---|
| <p>1 貧困をなくそう</p> <p>目標1【貧困】
あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる</p> | <p>10 人や国の不平等をなくそう</p> <p>目標10【不平等】
各国内及び各国間の不平等を是正する</p> |
| <p>2 飢餓をゼロに</p> <p>目標2【飢餓】
飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する</p> | <p>11 住み続けられるまちづくりを</p> <p>目標11【持続可能な都市】
包摂的で安全かつ強靱(レジリエント)で持続可能な都市及び人間居住を実現する</p> |
| <p>3 すべての人に健康と福祉を</p> <p>目標3【保健】
あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する</p> | <p>12 つくる責任 つかう責任</p> <p>目標12【持続可能な消費と生産】
持続可能な生産消費形態を確保する</p> |
| <p>4 質の高い教育をみんなに</p> <p>目標4【教育】
すべての人々への包摂的かつ公正な質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する</p> | <p>13 気候変動に具体的な対策を</p> <p>目標13【気候変動】
気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる</p> |
| <p>5 ジェンダー平等を実現しよう</p> <p>目標5【ジェンダー】
ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児の能力強化を行う</p> | <p>14 海の豊かさを守ろう</p> <p>目標14【海洋資源】
持続可能な開発のために海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する</p> |
| <p>6 安全な水とトイレを世界中に</p> <p>目標6【水・衛生】
すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する</p> | <p>15 陸の豊かさも守ろう</p> <p>目標15【陸上資源】
陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処、ならびに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する</p> |
| <p>7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに</p> <p>目標7【エネルギー】
すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する</p> | <p>16 平和と公正をすべての人に</p> <p>目標16【平和】
持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する</p> |
| <p>8 働きがいも経済成長も</p> <p>目標8【経済成長と雇用】
包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用(ディーセント・ワーク)を促進する</p> | <p>17 パートナリシップで目標を達成しよう</p> <p>目標17【実施手段】
持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する</p> |
| <p>9 産業と技術革新の基盤をつくろう</p> <p>目標9【インフラ、産業化、イノベーション】
強靱(レジリエント)なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る</p> | |

栃木県の取組

県民をはじめ、市町、企業、NPOなど地域社会を構成する多様な主体と県がSDGsの理念・目標を共有し、普及と促進に向けて取り組んでいます。

SDGs普及促進体験学習イベントの開催

小学生と保護者が一緒になって講義・ワーク等に取り組みながら、身近な問題とSDGsのつながりや、一人ひとりがゴール達成のためにできることを楽しく学ぶイベントを開催しています。



大学と連携したSDGsの推進

栃木県と国立大学法人宇都宮大学は、SDGsの達成に向け、相互に連携して取り組み、誰一人取り残さない社会の実現に資するため、連携協定を締結しています。



企業と連携したSDGsの推進

栃木県では、「とちぎSDGs推進企業登録制度」を創設し、登録企業におけるSDGs達成に向けた主体的な取組を促進するとともに、登録マークによる取組のPR等を通じて企業価値の向上や競争力強化を支援しています。

また、令和7(2025)年10月には、県、株式会社ファーストクラス、三井住友海上火災保険株式会社の三者で連携協定を締結し、登録企業と連携して食品ロスの削減など社会課題解決に向けた取組を促進しています。



「とちぎSDGs推進企業登録制度」の詳細はこちら



連携協定の詳細はこちら



株式会社ダイドードリンコサービス関東や株式会社八洋などと連携・協働して、自動販売機の売上の一部を寄付としていただき、県のSDGsの達成に向けた取組を推進するために役立っています。

栃木県
SDGs達成に向けた
取組を推進

自動販売機の
売上の一部を寄付

株式会社ダイドードリンコサービス関東
及び
事業に賛同いただいている事業所等

株式会社八洋
及び
事業に賛同いただいている事業所等

「新とちぎ未来創造プラン」におけるSDGsの推進

県政の基本指針である「新とちぎ未来創造プラン」に基づき、めざすとちぎの将来像「共に創る 人も地域も輝く“元気なとちぎ”」の実現に向け、15のプロジェクトを推進することは、SDGsの達成にもつながります。

多様な主体と連携・協働・共創しながら、SDGsの各ゴールの達成に向けた取組を積極的に推進していきます。

関連が深いゴールに●を記載

	1 貧困をなくそう	2 飢餓をゼロに	3 健康と福祉をすべての人に	4 質の高い教育をみんなに	5 ジェンダー平等を実現しよう	6 安全な水とトイレを世界中に	7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	8 働きがいも経済成長も	9 産業と技術革新の基盤をつくろう	10 人や国の不平等をなくそう	11 住み続けられるまちづくりを	12 つくる責任 つかう責任	13 気候変動に具体的な対策を	14 海の豊かさを守ろう	15 陸の豊かさを守ろう	16 平和と公正をすべての人に	17 パートナリーシップで目標を達成しよう
重点戦略1 人づくり戦略																	
こどもぎゅーつとちぎ実現プロジェクト	●	●	●	●	●			●		●	●	●				●	●
女性・若者活躍応援プロジェクト			●	●	●			●	●	●		●				●	●
未来を拓く人材育成プロジェクト	●		●	●	●			●	●	●	●	●				●	●
重点戦略2 産業成長戦略																	
未来を築く産業創出・成長プロジェクト		●		●	●		●	●	●	●	●	●	●				●
元気に輝く農業実現プロジェクト		●	●	●	●		●	●	●	●	●	●	●		●		●
とちぎの魅力を生かした観光立県・国際戦略プロジェクト		●		●				●	●	●	●	●	●		●		●
重点戦略3 健康・共生戦略																	
健康長寿いきいきプロジェクト		●	●	●	●			●	●	●	●	●				●	●
地域を支える医療・介護推進プロジェクト	●	●	●	●	●			●	●	●	●	●				●	●
共に支え、共に生きる社会実現プロジェクト	●	●	●	●	●			●	●	●	●	●				●	●
重点戦略4 安全・安心戦略																	
危機管理・災害対応力強化プロジェクト	●	●	●	●	●			●	●	●	●	●	●				●
いのちと暮らしを守る県土づくりプロジェクト	●	●	●	●		●		●	●		●	●	●		●		●
みんなで創る安全・安心プロジェクト	●	●	●	●	●			●	●	●	●	●	●			●	●
重点戦略5 地域・環境戦略																	
ふるさとの魅力創造プロジェクト	●		●	●	●			●	●	●	●	●	●		●	●	●
スマートで暮らしやすい「まち」づくりプロジェクト	●			●				●	●	●	●	●	●			●	●
次世代につなぐ環境立県プロジェクト		●	●	●		●	●	●	●		●	●	●	●	●		●

県内取組事例の紹介

県内では、SDGsの理念を自分ごととして捉え、行動に移す動きが着実に広がっています。地域団体や企業の活動、学校教育など、さまざまな場面で持続可能な社会づくりに向けた実践が進み、県民一人ひとりの暮らしの中にもSDGsの視点が根つき始めています。

ここでは、栃木県内で取り組まれている多様な事例を紹介し、地域全体で未来を支える取組の広がりをお伝えします。



SDGs Report 01

渡良瀬川源流域の森再生プロジェクト

特定非営利活動法人足尾に緑を育てる会

関連する主なゴール



▲小学生の体験植樹

足尾銅山の煙害等で荒廃した足尾の山の緑化活動を通じて水環境系を中心とした環境問題に取り組むとともに、渡良瀬川源流域の問題を考え、自然環境の健全化や地域社会の伸展につなげることを目的に活動しています。

環境学習会や講演会・シンポジウム、毎年の「春の植樹デー」の開催等、県内外の様々な方々と交流しながら活動を行っており、これまでの植樹活動の参加人数は236,165人、植樹本数は318,925本に上っています。

足尾の山に緑を取り戻すには、今後100年以上もかかるといわれています。活動を継続し、100万本の木を植えることが目標です。



▲春の植樹デー 低所での植樹

SDGs Report 02

サシバと人と食の持続可能な社会に向けた有機農業推進

市貝町オーガニックビレッジ協議会

関連する主なゴール



▲協議会メンバー

当協議会は、2022年に農業者、流通関係者、環境保護活動団体、消費者などによって設立され、耕作放棄地を再生した有機米の生産や学校給食への有機野菜の提供、SATOYAMAヘルシーマーケットの開催など、有機農業の推進に向けたさまざまな取組を行っています。農業者が有機農業に取り組みやすい環境づくりや、消費者の理解醸成を着実に進めてきたことが、町のシンボル「サシバ」の生息する谷津田を守ることにつながっています。



▲SATOYAMA ヘルシーマーケット

SDGs Report 03

地球温暖化防止と林業の活性化を目指す、3大学と産官学民連携のプロジェクト

ウッドストラクチャーアートの森

関連する主なゴール



▲参加学生の集合写真

東京電機大学、共立女子大学、北海学園大学、3校の建築学科の学生たちが、企業、地域住民、行政等の支援を受けながら、さくら市で自然とアートを同時に楽しめる空間を作っています。

大学毎に役割を決め、現地調査やワークショップを実施し、とちぎの木で遊具として使える木造オブジェを制作しています。4月からデザインを考え、作品選考会を経て9月の現地作業に望みます。学生たちは約1週間、現地に泊まり込んで作業をします。

学生たちは、さくら市林業振興会による木の伐採作業の見学や、地元の子供たちとの植樹を通して地域と交流し、栃木県林業大学校では、日本の林業や「とちぎの木」について講義を受け、学びを深めています。

なお、プロジェクト全体計画は5年で、アートの森は2028年に完成予定です。



▲作品「こもりん」(東京電機大学作)

大規模災害に備えて地域防災力UP ～自分たちの地域は自分たちで守る～

上三川町石田地区自治会自主防災連合会

関連する主なゴール



▲上三川町石田地区の防災訓練

頻発・激甚化する災害に対応するため、「自分達の地域は自分達で守る」を合い言葉に、2016年に自主防災組織を設立し、2020年に地区防災計画を策定しました。

その計画に基づき、子どもから高齢者まで多様な住民が一堂に会して、「楽しく防災を学ぶことができる訓練」を実施するとともに、地元小学校と連携して地域の災害リスクを踏まえた防災教育を展開しております。また、自主防災組織内における防災士増加へ向けた取組にも注力しており、住民が丸となって地域防災力UPを目指して日々活動しております。



▲小学生に対する防災教育

食を核とした、困難を抱えたひとへの重層的な支援

特定非営利活動法人フードバンクあしかが ほか

関連する主なゴール



▲足利市社会福祉協議会でのクリスマス食糧配布会

貧困家庭の困難は複雑で、多くの場合は食糧支援だけでは解決ができず、多方面からの重層的な支援が必要です。そこで、私たちは、フードバンクによる食品提供を中心として、行政と民間が連携した、困難を抱える市民を重層的に支える仕組みづくりを構築しました。

これにより、生活上の困難を抱えながら行政への相談に躊躇している市民を、フードバンクへの依頼をきっかけに行政の相談支援につなげるなど、お互いの強みを生かした困難の解決に向け取り組んでおり、現在では、180社を超える企業の皆様にも取組を支援いただいています。



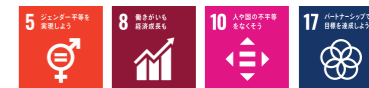
▲フードバンクあしかがの活動メンバー

取組団体名 特定非営利活動法人フードバンクあしかが、足利市、社会福祉法人足利市社会福祉協議会

多様な人材が活躍できる 職場環境づくりを目指して

株式会社足利銀行

関連する主なゴール



▲足利銀行「めぶき女性塾」

当行では、性別や年齢等に関わらず一人ひとりが能力を最大限に発揮できる環境づくりに取り組んでいます。その一環として、女性が活躍できる職場づくりに向けて意見交換を行う「めぶきジェンダーダイバーシティ会議」、キャリア形成を支援する研修等、女性の活躍機会拡充に向けた取組を行っています。男性の家事・育児の参画にも積極的に取り組んでおり、男性の育児休業取得率は100%を維持しています。これらが評価され「プラチナなるみんプラス」および「えるぼし(3段階目)」の認定を取得しました。

こうした取組の継続により従業員の働きがい充実と企業価値向上を図り、地域社会に新たな価値を提供することで、持続的な成長につなげていきます。



▲めぶきジェンダーダイバーシティ会議

地域を支える脱炭素化・レジリエンス強化への挑戦

光陽エンジニアリング株式会社

関連する主なゴール



▲充電器 (V2H) と蓄電池

当社では、太陽光発電による再生可能エネルギーや電気自動車の導入を進め、事業活動の脱炭素化に積極的に取り組んでいます。さらに、充電器 (V2H[※]) を導入することで、停電時には自社拠点の電力を確保できるだけでなく、災害時には地域のエネルギー源としても活用できる体制づくりを進めています。

これらの取組を通じて、地域への電力供給を可能とする電力の自立化を進め、エネルギー需給体制のレジリエンス強化に寄与しています。

今後も、地域とともに持続可能で強靱な社会の実現に向けた挑戦を続けてまいります。



▲充電スケジュール制御

※V2H: Vehicle to Homeの略。
EV等に蓄えた電気を家に供給するためのシステム。

「ずっと止まれる栃木県」を実現する 交通ルール啓発キャンペーン

TEAM STOP TOCHIGI

関連する主なゴール



▲2025年度キックオフ紙面

栃木県は2018年、JAFの調査で「信号機のない横断歩道での一時停止率」が全国最下位という課題に直面しました。この状況を打破すべく、下野新聞社は2019年5月、啓発キャンペーン「TEAM STOP TOCHIGI」を始動しました。栃木県警協力のもと、交通事故の削減に向けて、一時停止率の向上だけでなく交通事故発生状況や時季に応じた交通安全を促す新聞紙面での特集、啓発グッズの配布、WEBサイトでの発信など多角的に取り組んでおり、毎年約30社の県内企業・団体がこのキャンペーンに賛同しています。

県民一丸の「TEAM」として交通ルール遵守を推進し、個々のアクションが県全体の交通安全文化の向上につながるよう、これからも活動していきます。



▲啓発グッズ

取組団体名 下野新聞社、栃木県警、ほか協賛企業

持続可能な社会創造に貢献する サイエンスリーダーの育成

栃木県立宇都宮東高等学校・附属中学校

関連する主なゴール



▲課題研究発表会

本校は、文部科学省指定のスーパーサイエンスハイスクール (SSH) としての特色を生かし、「パイオニアスピリッツに溢れ、世界で活躍するサイエンスリーダーを育成する課題研究の開発」をテーマに科学的思考力と創造性を育む探究活動を積極的に推進しています。

生徒たちは、環境・エネルギー・地域社会の活性化など、SDGsの各目標に紐づくテーマを自ら設定し、実験、フィールドワーク、企業・大学との連携を通して課題解決に挑戦しています。これらの活動を通じて、科学的根拠に基づいて考え、協働しながら社会に貢献する力を育成し、生徒一人ひとりが世界とつながり、未来を切り拓く力を身につけています。



▲学年をこえた交流活動

「エネルギー資源とその利用」 におけるSDGs教育の展開

那須塩原市立塩原小中学校

関連する主なゴール



▲全校生による生態系維持活動「箒川リフレッシュ大作戦」

本校では、「SDGsの視点を生かした地域学習を展開し、地域への愛着心や問題解決能力を育てること」を方針の一つにしています。そこで、学校行事や総合的な学習の時間において、地域の人材と自然環境を生かした生態系維持活動や、地熱発電研究施設の見学によるエネルギー教育に取り組んでいます。

人の手によって生態系を維持する取組を体験し、持続可能なエネルギーとは何かについて追究する中で、開発と環境保全の両立について深く考えるようになりました。こうした学習を通して、グローバルな課題が自分たちの生活につながっていることを捉え、自分たちが暮らす地域をより良くしていこうとする意欲を育むことができました。



▲生態系維持活動のため、カジカの産卵床を作成

SDGsの視点で行う 特別の教科「道徳」

宇都宮市立岡本西小学校

関連する主なゴール



▲地域のボランティアの方による学校周辺の自然環境についての特別授業

本校は「学校・家庭・地域が一体となって、共に学ぶ楽しさ、共に伸びる喜びを創造する学校」を目指しています。日頃から、保護者や地域のボランティアの方々など、多様な大人と関わりながら学びを深めています。

SDGsの視点で行う道徳の授業実践では、働くことが義務ではなく「誰かの役に立ちたい」という思いで行われることの素晴らしさを考えるとともに、保護者アンケートにより集めた様々な職業の「仕事内容と働きがい」を紹介することで、児童の職業観が広がりました。さらに、多くの児童が「働くことはお金のためだけでなく、みんなのためになる」と捉え直し、SDGsの目標を自分事として実感することができました。



▲特別の教科「道徳」での授業